

1-1 ワークショップの概要

(1) 目的

○札幌市都市計画マスタープランの見直し骨子案及び札幌市立地適正化計画の考え方に対し、市民の視点から、将来の札幌にとって重要だと思う内容や不足していると思う内容などについて意見をもらい、これらを都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の素案作成に活用することを目的とする。

◆都市計画マスタープラン

：これまでの検討部会や、昨年度に実施した市民参加事業で得られた意見などを踏まえてまとめた見直しの骨子案

◆立地適正化計画

：札幌市の現況や動向、居住誘導区域・都市機能誘導区域・居住ストック活用区域についての考え方

市民からの意見

重要だと思う内容・不足していると思う内容
必要だと思う具体的な取組

札幌市都市計画マスタープラン(素案)
札幌市立地適正化計画(素案)

(3) 実施方法

○平成26年12月に開催したまちづくりワークショップの参加者28名に参加を依頼し、当日は16名が参加。前回のグループ構成を基本に、年齢・性別・居住区等の属性の偏りが少なくなるよう調整し、4グループに分けて実施。

○札幌市より、都市計画マスタープランの見直し骨子案及び立地適正化計画の考え方について説明した上で、これらの内容に対してエリアごと(都心・拠点・市街地・住宅地・市街地の外)に、
✓重要だと思う内容
✓足りないと思う内容
✓必要だと思う具体的な取組
について意見交換し、結果を発表。



説明資料(抜粋)



骨子案などの内容について説明



グループでの意見交換、とりまとめ



グループごとの討議結果発表

(2) 開催日時・会場

○日時：平成27年8月2日(日) 10:00~12:00

○会場：札幌市民ホール 第1・2会議室

2. 第2回「まちづくりワークショップ」について

1-2 意見のまとめ

(1) 骨子等において重要だと思う点

都心：骨子等で示されている内容は全て重要
拠点：施設の誘導や移動しやすい環境づくり
市街地：人口減少に対応した市街地形成
住宅地：小学校を中心としたまちづくり
市街地の外：自然環境の保全と魅力づくり

(2) 骨子等において不足していると思う点

都心：都心に関わる交通利便性、歩行・交通環境、安全・安心な都心環境、人口減少の歯止めにつながる都心づくり、景観・環境の整備、集客に対する受け入れ環境
拠点：施設の誘導、施設等の利用環境、冬の快適な歩行環境、拠点間・周辺と拠点間の移動のしやすさ、空き家対策、暮らしやすい環境づくり、自転車の利用環境
市街地：暮らしやすい環境づくり、既存建物を活用した交流空間の創出
住宅地：交流空間の確保、子育て環境、交通利便性の向上、市民農園・菜園の整備
市街地の外：拠点への交通アクセス、周辺市と連携した環境整備
共通：観光客のもてなし環境、災害時の避難対策、子どもの遊び場

(3) 必要だと思う具体的な取組

今後、都市計画マスタープランまたは立地適正化計画の中で補強、または、新たに盛り込むことを検討していく。

都心	◆景観や環境に関するルール化（条例制定、建物の高層化の規制など） ◆空き室・空き地の有効活用（駐車場の充実など） ◆公共交通の円滑化（バス乗り場の集約化、空港へのアクセスの確保など） ◆大規模な避難場所の確保 ◆多様な休憩スペースの設置 ◆外国人等の受け入れ環境づくり（出張者・観光旅行者向けの手荷物預かり窓口、安価な宿泊場所（空き家を活用したゲストハウスなど））
拠点	◆交通利便性の向上（各施設へのシャトルバス、通勤・通学時間のコミュニティバス（シルバー人材の活用）、バス停の待合所設置、バスの利用向上の取り組みなど） ◆自転車ネットワークの整備やルールづくり（自転車道の整備、サイクリングロードの交通規制、放置自転車対策など）。 ◆安全・安心な拠点づくり（夜道の安全性、歩道のバリアフリー化など） ◆拠点整備（保育所、ちあふる、都心に出なくても済むもの、まちセンの拡充、役所関係など） ◆観光客等の受け入れ環境づくり（安価な宿など） ◆真駒内地区の活性化（地下鉄からの無料バスでアクセスでき、空き家などを活用した子どもの遊び場づくりなど）
市街地	◆空き地を活用した市街地や住宅地の駐輪場の整備
住宅地	◆地域全体での子育て（町内会への支援、学習会など） ◆高齢者向けの施設等の整備（気軽に入れる高齢者施設の整備、シェアハウス等、高齢者サロンなど） ◆空き家対策（治安対策、街灯増設やパトロールの強化など） ◆農業体験等の教育の充実（住宅地のなかのより身近な環境を活用、小中学校の生徒・大人も含めた親子で体験）
共通	◆困った時（急病、災害時等）の連絡体制づくり

2. 「これからの都市づくりを考えるパネル展」について

2-1 パネル展の概要

(1) 目的

- 札幌市都市計画マスタープランの見直し骨子案及び札幌市立地適正化計画の考え方についての概要を紹介するパネル展を開催することにより、札幌市のこれからの都市づくりについて広く知ってもらい、考えてもらう機会とする。
- また、見学に来た市民の方々から意見を集め、これらを都市計画マスタープラン及び立地適性化計画の素案作成に活用することを目的とする。

(2) 開催日・会場

- 日付：平成27年7月22日～8月9日の期間中、各会場3日間
(市役所のみ4日間)

会 場	開 催 日
中央区役所	7月22日（水） ～ 24日（金）
南区役所	7月22日（水） ～ 24日（金）
東区民センター	7月23日（木） ～ 25日（土）
白石区民センター	7月23日（木） ～ 25日（土）
北区役所	7月27日（月） ～ 29日（水）
西区役所	7月27日（月） ～ 29日（水）
市役所ロビー	7月27日（月） ～ 30日（木）
豊平区役所	7月28日（火） ～ 30日（木）
清田区役所	7月28日（火） ～ 30日（木）
手稲区役所	8月4日（火） ～ 6日（木）
厚別区民センター	8月7日（金） ～ 9日（日）

(3) 市民などへの周知

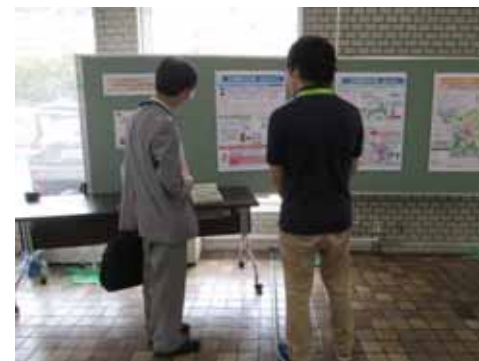
- 広報さっぽろ7月号に開催案内を掲載。
- 都市計画部ホームページにパネル展の開催案内を掲載。
あわせて、展示パネルと同じ資料も掲載。

(4) 実施方法

- 市民に判りやすい表現を用いたパネルを展示。
- 展示会場に意見記入用紙を設置し、パネルを見た感想や都市づくりに対する考えなど、市民の方々の意見を記載してもらった。
 - ✓将来の札幌のまちにとって十分な内容だと感じたか
 - ✓足りないと感じたのは、具体的にどのような内容か
 - ✓立地適正化計画の考え方に対する感想や意見 など
- 市役所ロビーでは職員が常に立ち会い、また、各区役所などでは特定の日時に立ち会うことにより、市民からの質問等に応じた。



市役所ロビーの展示状況



中央区役所の立会状況

(5) 実施結果

- 市役所ロビー来場者数：207名
- 意見募集用紙の回収数：35枚

（５）展示パネルの内容

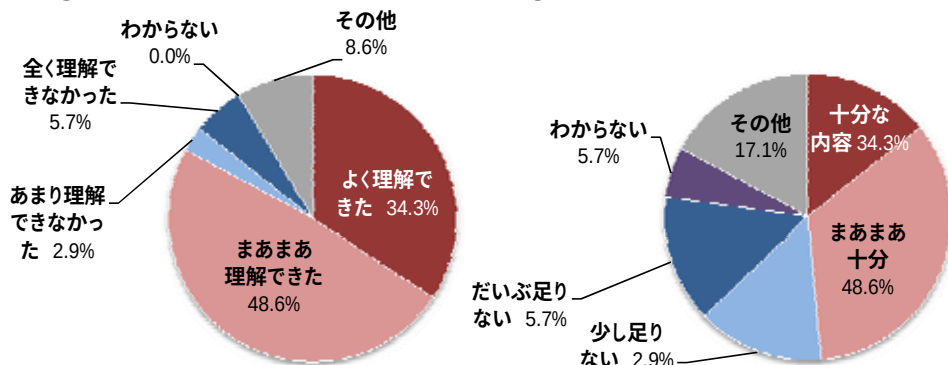
[illegible]

2. 「これからの都市づくりを考えるパネル展」について

2-2 意見のまとめ

(1) 都市計画マスタープランの見直し骨子案について

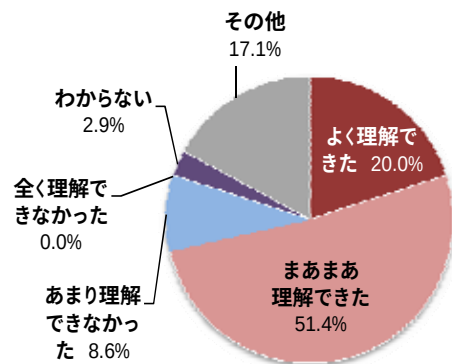
Q1.内容を理解できたか Q2.十分な内容であったか Q3 足りないと思う内容



- ・現在残されている緑・自然環境の保全のみならず、積極的に失われたものを取り戻す施策が必要。ビオトープ、三面ばりの山河川の復元など。そのためにも集合住宅化は積極的に進めてほしい。
- ・具体的な内容が必要。例えば、セカンドハウス制度など。都心にマンションを購入し、郊外に戸建を購入しやすい制度をつくり、若い時は都心拠点地区で働き週末は郊外で過ごす。定年後は郊外で暮らす。高齢期は都心や拠点のマンション生活、このようなライフプランを安い住宅（中古など）で実現できるような政策。
- ・①外部（札幌以外）との連携、②丘珠空港の利用・活用、③飛地（過去の計画による）や災害危険地（山崩etc）の解消。
- ・水素ステーション建設の誘致など。下水道の熱利用に加え、工場などの排熱を利用できないか。
- ・環境（自然）を最大限に生かすために、イギリスのように都市の交通制限、自転車の利用を増加させるための道路整備。

(2) 立地適正化計画の考え方について

Q1.内容を理解できたか Q2.感想や意見



- ・居住ストック活用区域と公共交通ネットワークの関係性がこれからの札幌市の都市運営で重要なポイントの1つであると思うので、居住ストック活用区域については、公共交通のサービス水準的なことを市民に示す必要がある。
- ・コンパクトシティ化は、人口密度を上げるため、自宅近くに駐車して車を利用すると車の交通量（密度）を増やす。そのため、コンパクトシティ化を進める際はこれまで以上の車利用抑制政策が必要。交通安全のために重要。
- ・札幌のみが北海道で生き残る可能性が大きいと思う。北海道の中における中心の視点があってもよい。
- ・各施設と合わせて居住区からのアクセスのしやすさ。特に冬季期間の交通渋滞緩和の対策なども各局連携し、もっと住みやすい街づくりをめざして欲しい。
- ・医療、福祉などの施設を集合させ、熱循環を行える地域を作ってはどうか。
- ・限られた予算の中でよく考えられた計画だと思う。しかし、車を使わず住みかえもできなければ、あまり成果があがらないかもしれない。地下鉄の各路線の枝の部をつなぎ、交通機関の利便性を高める必要もあるのではないかな。

(3) 全体に対する自由意見

- ・緑あふれる、そして冬も夏も自然を身近に楽しめる都市を目指してほしい。
- ・今までであるもの（箱もの等）を利用したまちづくりは大変理解できた。これからのまちづくり、そして若い方々・子供たちが新しいまちづくりをしていくために、具体的な計画や夢をもてる考え方を示すことができるならば、もっとよい札幌市になると思う。
- ・「自転車を利用しやすい環境に改善」について。これまで自転車に関しては、駐輪場の整備が行われてきており、素晴らしいと思うが、残るは都市部の駐輪環境だと思う。自転車の通行環境はどこを走ってよいのかわからず（歩道はダメ、車道は無理）、本計画の自転車の環境改善はぜひお願いしたい。「みどりのネットワーク」は自転車も走れる箇所が多いので、このようなネットワークも取り込んで、自転車ネットワークを考えていただきたい。
- ・札幌は、札幌のみではなく「北海道を考えてみた」視点も必要。特に、ロシアとの関係における札幌、冬の省エネ、中心地の新ビルおよび新築建物（マンション）における減CO2の建築仕様の条例化などを考えてもよいのではないかな。
- ・公共交通を利用する人に対してバランスの良いまちづくりをしてほしい。地区の特性が薄まっている気がするので、特色を出していく方がよい。